

市町村との意見交換会

日時：平成30年12月25日（火）

午後3時40分～午後5時27分

場所：大阪府立国際会議場10階

1001～1002会議場

開会 午後3時40分

○事務局　ただいまから市町村の皆様と関西広域連合との意見交換会を開催させていただきます。

私、本日、司会を務めさせていただきます本部事務局長の村上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、御出席いただいております皆様を御紹介すべきところではございますが、時間の関係もございますので、お手元の配席表で代えさせていただきますと思います。

なお、この意見交換会は、公開としております。よろしくお願いいたします。

それでは、初めに、井戸関西広域連合長より御挨拶を申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

○広域連合長（井戸敏三）　本日は年末の本当に御多用の中、市町村長の皆様には御出席いただきまして、ありがとうございます。

今日は、2021年までに京都への全面的移転が決定しております文化庁の村田次長においでいただいております。会の冒頭に文化庁の京都移転につきまして御説明をいただくことにいたしておりますので、よろしくお願いいたします。

また、皆様にも御協力を賜ってまいりました2025日本万国博覧会の誘致につきまして、B I Eの総会におきまして、見事、大阪・関西が開催地として決定されました。本当に皆様の御尽力に心からお礼を申し上げたいと思います。

皆様の活動も含めまして、全国民が待望していた誘致が決まったわけでありまして、これからはこれを活かして、オリンピック、ワールドマスターズゲームズに引き続き、

2025年の万博という1つの大きな関西全体としての目標ができたわけでありますので、それに向かって一致団結、関西の成長のために進んでいきたいと考えております。

準備がこれから始まってまいります。情報交流等いろいろな意味で御協力をいただくことがスタートすることになりますが、よろしく願いをさせていただきます。

前回は、8月にこの意見交換会を開催しましたが、今回で14回目となります。相互理解を深めるための会でございます。よろしくお願いいたします。

関西広域連合が発足いたしまして、8年を迎えました。私どもの固有の事務である防災などにつきましては、それなりの評価をいただいているわけでありますが、一方で、国との関係におきましては、ただいま申し上げました文化庁の全面的移転ですとか、総務省統計データ利活用センターの設置ですとか、あるいは徳島に消費者庁消費者行政新未来創造オフィスが設置されるなど、国の機関の移転につきましては、それぞれ実現を見、また次なる展開が求められているわけでありますが、一般的な意味での国の権限移譲、あるいは国の機関が担っております役割の全面移譲というような点につきましては、なかなか実現の兆しもないというのが実情でございます。

前政権時代に法律まで閣議決定されたんでありますが、その後、解散によりまして頓挫してしまい、我々常に要請はいたしておりますけど、現時点では国との具体の交渉が始まっていないと、こういう実情になっております。

私は、これからの時代、明治維新から150年なんでありますが、明治維新は何をしたのかというと、それまで分権体制であったものを、外国等の圧力に負けない日本国をつくるために、天皇を中心とする中央集権国家をつくり上げることによって乗り切ってきたわけです。今150年がたちまして、東京一極集中ですとか、あるいは価値観の多様化ですとか、地方と東京との格差などを是正しようとした場合に望まれているのは、中央集権の一律的な対応ではなくて、各地方の個性を活かした自立が求められているということになりますと、この150年で、課題が180度違いまして、分権的な体制をどう実現していくのかというのが時代の要請なのではないか、そのような意味で

も、しっかり関西から地方分権に対する主張を国に対してぶつけ続けていくことは大事だ、このように思っております。

来年からいよいよ2019年のラグビーのワールドカップが始まります。また、大阪でG20が開催されます。大きな事業のスタートが始まるわけであります。2020年は東京オリンピック・パラリンピック、2021年は、第10回目となるワールドマスターズゲームズがアジアで初めて関西を舞台として開かれます。そして2025年が万博という意味で、大変スタートを切るにふさわしい年を迎えようとしているわけでありますので、しっかり私ども広域行政を行う者としても、また広域行政に参加しております各府県市におきましても、取組を進めていかねばならない、このように考えているものでございます。

本日は短い時間ではありますが、忌憚のない意見交換をさせていただきまして、相互理解、共通認識を深めさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いを申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

○事務局 それでは、第1部といたしまして、文化庁の村田次長から、「文化の力による地方創生」についてお話をいただきたいと思っております。

その後、文化行政などにつきまして、意見交換会の場としていただければと考えております。

それでは、村田次長、どうぞよろしくお願いいたします。

○文化庁次長（村田善則） 「文化の力による地方創生」について説明

○事務局 どうもありがとうございました。

それでは、意見交換に移らせていただきます。ただいまのお話に関連しまして、御発言等ございましたら、よろしくお願いいたします。

島田市長、お願いします。

○河内長野市長（島田智明） 文化の力による地方創生ということで、本当に文化の力を使って地域の活性化、特に観光振興と一緒に力を入れていければなと思っております。

観光振興ということなのですが、本当にいろいろな、この後のスポーツツーリズムとか、大阪万博とか、そういうものもあると思います。個人的には、大河ドラマ「楠公さん」というのも頑張っておりますので、そういったところでも観光振興というのはつながると思うんですが、王道というのは、有形・無形に関わらず、やはり文化財というところかなと思っております。

文化財というのは、維持するのに非常にお金がかかっていく、それを文化庁にお願いするっていうのは忍びないなというところはございまして、やはり一緒にお金が回る仕組み、文化財をどう活かしていくかという、お金が回る仕組みっていうのを一緒に考えていって、それで維持管理できるような体制をつくっていくべきだと考えております。

文化財をどう見せるかというところは、本当にいろいろなアドバイスをいただかないといけないなと考えておりまして、河内長野市に金剛寺というお寺があるんですが、その金堂を修理するときの中の仏像を、特に中心となる大日如来像を京都国立博物館に預かっていただきまして、ちょうど1年前になるんですが、美術工芸の国宝の4分の1が展示される京都国宝展という大々的な国宝展があったんですが、ちょうどそのど真ん中に大日如来像を置いていただきまして、改めて見ると、こんなにすごい仏像だったかなと。改めて考えたんですけど、やっぱり見せ方なんですよね。普通にお寺にある金堂だと、セキュリティの面から近づいちゃいけないとか、照明とかも普通にある仏像ですんで、きれいじゃないと。ところが、やっぱり国立博物館に置くと、照明の当て方も上手ですし、2階から見れるとか、セキュリティもしっかりしているんで近くで見れるとか、やっぱり工夫次第では、こんなに仏像が輝くんだっていうのを改めて思いまして、それでみんな、お金を払ってでも見たいなという気持ちになる

んだなど。ですので、やはりお金が回る仕組みっていうのを考える上で、仏像、金堂、いろいろなものを、文化財、それは有形に限らず、無形もそうだと思うんですね。だんじりとかでもうまく見せてくるところがあると思うんで、そういったところを一緒に研究して行って、特に文化庁が京都に来てくださるということですので、これを契機に一緒にお金が回る仕組みっていうのを考えていきたいと思いたすんで、よろしくお願ひいたします。

○文化庁次長（村田善則） ありがとうございます。島田市長から大変大切な御指摘をいただきました。私どももまさにお金が回る仕組みを考えていこうと。これはもちろん国の責任として、国指定の文化財にしっかり予算を確保して修復するということは当然のことでございますが、一方では、それだけで全て解決するわけではなくて、むしろ市町村、あるいは地元の文化財というものをどう守っていくのかと。それはある意味では、広く文化財に関心がある方、あるいは歴史に関心がある方に応援をしていただけるように、そのことによってお金がある意味では回る仕組みとする。それは今お話があった上手な見せ方というとお寺の方に叱られてしまうかもしれませんけれども、やはり文化財をどう楽しく、おもしろく、また素晴らしいものとして見ていただけるのかという工夫であると思いたす。これは単に仏像だけではなくて、お話があった無形もそうだろうと思いたすし、そうした文化財をどう楽しく見ていただけるのか。それはまさに私ども文化庁としてもいろいろな知恵を出していかなければいけないと思っております。それは民間の美術館の方とか博物館の方もいろいろな知恵を持っておられますので、これはまた自治体の皆様ともぜひ一緒になりながら、どうきれいに、楽しく、おもしろく文化財を見ていただけるのかということテーマとして、私どもも研究をさせていただきたいと思っております。

○事務局 山中市長、お願ひします。

○芦屋市長（山中 健） 我々も東京一極集中の是正とか、あるいは政府機関の移転が地方創生につながるかというような地方の願ひがかなって、大変うれしいと思ひ

ます。

文化庁移転の意義はいろいろご説明いただきましたが、村田次長から見て、課題と
いったものは何かありますでしょうか。

○文化庁次長（村田善則） ありがとうございます。これも大事な点でございます。
私ども文化庁は国の機関でございますので、そういう意味では、国の機関としては、
ほかの省庁との調整ですとか、あるいは国会との関係があります。それからもう一つ
は、自治体との関係でいいますと、結局、京都に移ってくると、近畿の方々は近くな
って便利になる一方で、逆に北海道や東北とか、実際そういうお声もお聞きしますが、
やっぱり今までと違って遠くなるとか。あるいは、例えば伝統的な建造物群、町並み
の地区がございますけれども、そういった関係の調整ですと、大体トップの方々は、
総務省に行ってお話をされ、それから国交省に行ってお願いをされ、文化庁ともお話
をされに来ると。そうすると、今まではそれが一度にできたものが、これから新幹線
に乗って来なきゃいけないねっていうようなこともあって、そのあたりをどう埋めて
いくのか工夫をしなければいけないところだと思っています。

一方ではICTが非常に普及して、今はテレビ会議のシステムなんかかなり活用
できるようになっています。実は先週、ちょうど私どもの筆頭課の政策課の課長補佐、
係長、係員の3人が1週間、京都の地域文化創生本部に常駐しまして、シミュレーシ
ョンを実際にしました。本当にこちらとの連絡がうまくいくかどうかと。結論から言
いますと、内部的ないろいろな連絡は、かなりテレビ会議のシステムなど優れたもの
ができていますので埋まります。一方で、先ほど申し上げた文化庁から外の、これは
芸術文化団体の方々であったり、関係自治体の方々であったり、あるいは国会の先生
方であったり、そういったところとのコミュニケーションをどう確保していくのかと
いうところは、やっぱりこれからいろいろ考えていかないといけないかなと。ぜひ関
西広域連合の皆様にもいろいろお知恵をお借りしながら、少し具体的なことを考えて
いかないといけないと考えているところでございます。

○事務局 ありがとうございます。

ただいまの2点のお話も含めまして、そのほかにも関連する、あるいは新しい御発言等ございましたら、お願いします。

庵途町長、お願いします。

○佐用町長（庵途典章） 失礼します。兵庫県佐用町の庵途と申します。

私たち、人口がどんどん減少していく地方の中で、今、生活に根差したそうした文化にも、改めて地方創生として力を入れていくというお話をいただいているんですけども、やはり文化財という形でいろいろな指定を受けたような建造物とか、また美術品とか、いろいろな大きなそうした価値、国宝とか重文とかというものがあれば、それが1つの大きな観光の資源とか経済的にも大きな力が発揮できるんですけども、私たちの町なんかそういうものは何もない。ただ、地域の癒やし、文化としてずっと伝統文化を継承してきている、いわゆる集落の鎮守の森、神社ですね。それからお寺、そういった宗教というものに関わるものが地方のその文化を育んできた、拠り所になっております。

そうした建物が非常に老朽化して、どんどんと集落の人口も減り、そういう力がなくなっている中で、お宮を維持することもできない。また、お寺なんかもどんどんと檀家といわれる方が少なくなって廃寺にせざるを得ないとか、そういう現状で、これからますますそういうことが進んでいくのではないかなということを危惧しております。

そこで、お宮の年中行事としていろいろなお祭りがされ、そうしたものが1つの地方の地域の文化というものを育んできたわけですけども、そういうことに対しての宗教と文化という関係の中で、もう少し生活という面に根差した、地域の実態に合わせた公的な支援ができるような、また地域のそうした文化を守っていける、神社とかそういうものを守っていけるような施策はないのかなということも感じております。

○文化庁次長（村田善則） これもなかなか正直言って、まさに町長がお話しのと

おり政教分離との関係があります。現実的な問題として、地域の鎮守の森、神社、お寺がいろいろな地域住民の方々のコミュニティの拠り所になっているということは事実でございます。

それに対して、公的な行政が、その支援にどのように関われるか。宗教活動だからということで支援すれば政教分離との問題になりますので、そうするとそれ以外で対応する方法としては、1つは文化財。これは国の文化財だけではなく、それぞれの市町村が文化財として指定していただくことができます。そういった文化財の観点から保護していくと。これは、鎮守の森も場合によっては樹木の保存とか、樹林の保存といった観点からサポートしていくということは、現実的に幾つかの市町村ではあるわけでございます。

もう一つ、最近あるのはコミュニティの拠点としての観点。例えば災害のときにお寺とか神社がお堂を提供していただいて住民のサポートをしていただき、それに対して一定の支援をするというようなニュースもございました。そういったさまざまなほかの切り口、行政的な支援の切り口から応援ができないかということが1つであろうと思います。

文化庁として、正直に言って対応できるのは文化財のところまででございますけれど、国指定だけではなく、先の通常国会で文化財保護法が改正されまして、地域にとって大切な文化財を総合的に保存・活用する計画を指定されていない文化財も含めてつくっていただいて、支援をしていただくと。その計画策定にささやかではございますけど支援の仕組みも文化庁でつくらせていただいております。そういう文化的な側面から応援できるものがあれば、その枠組みを使っただけだと思っております。

どうしても政教分離との関係がありますので、いろいろな行政的な観点から支援を考えていただくことで対応可能なのかなというのが正直なところでございます。

○事務局 ありがとうございます。ほかに御質問、御発言等ございましたらお願いいたします。

阪口市長、お願いします。

○高石市長（阪口伸六） 発言というより、ようこそおいでいただきました。期待を込めての意見だと思いますので、あんまりびびらんとというか、緊張なさらずに、ホームだと思って、これから接させていただきたいと思っておりますので。

本当に決して東京一極集中ではないと思っております。文化庁、まさに歴史を大事にしてください、京都、奈良初め、何せ江戸城は太田道灌ですから、15世紀半ばですか、たった500年前でございますから、確か奈良は1,300年、更に斑鳩なんてなると1,500年前位になるんですかね。とにかくそういう歴史の宝庫ですから、そういった面では、我々、何らびくともしておりませんで、大いに力強く思っておりますので、どうかこれからもずっぴり関西に入ってやっていただきたいと、こういうことだけ申し上げて、もう質問ではありませんので、ウエルカムということでよろしく申し上げます。

○事務局 どうもありがとうございました。ほかにもあろうかと思いますが、ここで第1部の総括コメントを広域連合の文化担当であります西脇委員からお願いしたいと思えます。

○委員（西脇隆俊） 本日は御多忙のところ、関西の市町村の代表の皆様、そして文化庁の村田次長に御出席いただきまして、どうもありがとうございます。

先ほど御説明にありましたように、まさに村田次長、通称京都次長と呼ばれておられるらしいんですけれども、10月の組織改正で東京から関西に文化庁が来る、新しい体制ができたということでございます。まさに新しい文化庁が動き始めたなど実感をしておりまして、今日のテーマは文化の力による地方創生なんですが、宮田長官が常々、文化・観光・経済の三輪車とおっしゃっていらして、二輪だと不安定だけど、三輪になれば安定するというので、まさにその三者が分担しながら地方創生につなげていくということが重要だと思っております。

今、最後はウエルカムでしたけれども、率直な意見をいただきました。特に鎮守の森等々も含めた政教分離のお話など、京都にあるものは、宗教関係が多いのですが、

いろいろな知恵で、文化財だけではないと思いますし、何ととっても文化庁が機能強化されたのは、文化政策の総合的推進という機能が付きましたので、文化庁が直接所管されているところじゃないところにも、文化政策という面からいろいろお力をいただけたらと思っております。特に文化庁には、これを機に地方の生の声を聞いていただいて、ぜひともそういう地方の視線で文化政策を進めていただくようお願いしたいと思います。

最初の連合長の挨拶にありましたように、来年は、ラグビーワールドカップとG20大阪サミット、それから今、文化庁のお話にもありましたICOM（国際博物館会議京都大会）があります。それと、あと百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録への審議の大詰めと、いろいろなターゲットイヤーでもありますし、その後は、東京2020オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西、大阪・関西万博という、まさに関西が世界から注目される機会でございますので、この際、いろいろ発信をしていければと思います。

いずれにしても、関西の存在感を高める非常にチャンスだと思っておりますので、関西広域連合といたしましても皆様と一緒にしまして、文化の力で地方を元気にするように努力をしてみたいと思いますし、文化庁におかれましても、引き続きというよりも、まさに今度は近くに来られますので、先ほど率直に課題についておっしゃっていただきましたけれども、一緒になってその課題も解決するように努力をしたいと思います。今日はどうも本当にありがとうございました。

○文化庁次長（村田善則） どうもありがとうございました。

○事務局 どうもありがとうございました。それでは、村田次長は、ここで御退席されますので、いま一度、お礼の拍手をお願いしたいと思います。

（文化庁 村田次長 退席）

それでは、引き続きまして、第2部に移らさせていただきます。

各委員より広域連合の来年度の重点取組について御説明をいたします。時間が限られておりますので、簡潔にお願いしたいと思います。

それでは、まず広域連合長からお願いしまして、その後、各委員からお願いしたいと思います。

○ 各分野担当委員による説明（資料説明）

1 関西広域連合の平成31年度の重点取組について

- ・井戸広域連合長：広域防災、広域スポーツ振興、資格試験・免許、企画調整事務（国の事務・権限の移譲等）等
- ・西脇委員：広域観光・文化振興
- ・平井委員：広域観光・文化振興（ジオパーク推進）
- ・濱田副委員：広域産業振興
- ・仁坂副広域連合長：広域産業振興（農林水産）、広域職員研修
- ・海野副委員：広域医療
- ・三日月委員：広域環境保全

2 濱田副委員：「2025大阪・関西万博」に向けて

〔吉村委員：市町村の万博誘致に対する支援、協力への謝意及び引き続いての支援、協力を依頼〕

3 WMG組織委員会事務局：「ワールドマスターズゲームズ2021関西」に向けて

○事務局　それでは、ただいまから意見交換に移りたいと思います。

ただいま御説明をいたしました事柄のほか、広域連合の運営、その他いろいろな点につきまして御意見をいただければと思います。

藤原市長、お願いします。

○伊丹市長（藤原保幸）　伊丹市長の藤原と申します。せっかくの機会であります

ので、基礎自治体の長の1人として、井戸広域連合長を初め広域連合の皆様方に、1点要望をお願いしたいと思います。

私ども伊丹市では、伊丹市に限ったことではなく、全ての基礎自治体がそうだと思うんですけれども、全国的な人口減少局面の中、どうやって地域の活性化を図るか、要は地方創生、地域創生ともいわれますけれど、それに懸命に取り組んでおるつもりではございます。

ただ、基礎自治体の範囲内だけではどうしようもない課題も多々ございまして、そしてさらに府県の知事さんを前にしてこう申し上げるのも恐縮ですけれども、府県単位でもおさまらない課題が出てきている、そういう観点からこの関西広域連合が設立され、関西全体の立場でどうすればいいかを議論し、事業を進めていただいています。そういう意味で、先ほど来年度の重点取組を御説明いただきまして、広域的な防災や観光や産業振興等々に取り組んでいただくこと、まず感謝申し上げたいと思います。

ただ、ここで申し上げたいのは、こうしたそれぞれの防災、観光、産業といった政策目的を横に貫くテーマとして、広域的な交通政策といいますか、ネットワークをどうするかということが大事ではないかと私は考えておりまして、前回のこの場でもそういう意見を発表させていただいた記憶がございまして、関西全体の行き来をどうするか。また、国際的な海外との交通ネットワークをどう組むかということが今後大事なのかなと思っております。

そういう面で、あえて申し上げれば、昨日、関西3空港の懇談会が開催されたと理解しておりまして、ここで聞いておりますのは、今後、未来に向けて3空港をどう活用すればいいのかという御議論が始まったと理解しております。

ここで私、伊丹市長だから伊丹空港をどうこうということを申し上げたい気持ちもあるわけではあります、それはちょっと遠慮いたしまして、お願いしたいのは、まさに国際空港といいますか、空港のネットワークといいますと、全国的、あるいは全世界的なネットワークもつながってまいりますので、ぜひ、地元の自治体が言うのも

変なんですけれども、狭い意味での地域利益ということを超えて、広域的に関西全体、あるいは日本全体にとってどうすればよいのかということを中心に御議論いただければありがたいなと思います。

特に関西におきましては、今日も御説明にありましたように、来年、数カ月先にはG20が確定しております。さらには、秋にはラグビーのワールドカップがあります。さらにその1年後には、東京ではありますがオリ・パラがあって、その次にはワールドマスターズゲームズ関西、そして2025年の大阪万博、こうしたものをどう成功させるかっていうのは当面の課題として、中長期的な課題もありますけれども、それを当面の課題としてはそういうことがあるわけでありまして。そういうイベントに合わせて、どのように関西に世界から多くの方に来てもらえるか、そういったことを中心にぜひ御議論いただきたいと思いますなと思っております。

もちろん関空が中心であることは間違いないかと思っておりますけれども、伊丹・神戸もそれを補完する形でどのような活用があるのか、それがどのように関西全体のためになるのかという観点から御議論いただければありがたいなと思っております。

以上、お願いでございます。

○事務局 ありがとうございます。

○広域連合長（井戸敏三） 昨日、3空港懇談会が開かれました。8年前に開かれた後の会議であったわけでありまして、8年間に大きな環境変化がもたらされています。10年前にリーマンショックがあったわけで、その後、インバウンドも冷え込んだ。そういう状況の中でどうしていくかってことが8年前は問われた。今回はその後の大きな変化を受けて、今後の3空港の基本的な方向付けをどうしようかというのが議論の建前になっておりますのと、3空港の実質的な一元管理、関西エアポートが管理を始められたということもありますので、そのような状況を踏まえて、今おっしゃったような広域的な見地から検討を進めていくということになろうかと思っております。春に2回目の会議を行おうということを決めて、とりあえず各関係者の意見表明があった。

その内容は今日の新聞等に報道されている内容でありますので繰り返しません、そのような形で、基本的に御指摘のようなスタンスで議論が進みつつあるということをお報告させていただきたいと思っております。

○事務局　そのほかにお質問、御発言がございますでしょうか。

島田市長、お願いします。

○河内長野市長（島田智明）　まず、2025年大阪・関西万博の決定の御尽力ありがとうございました。2025年までいろいろなイベントが目白押しだと思います。今日のお話の中にあつたワールドマスターズゲームズもそうなんですが、やはり我々が期待するところは、今話題になっているインバウンド、つまり訪日外国人観光客をどう獲得していくかということだと思います。去年に比べて今年も増えているようで、去年の日本政府観光局のデータを見ていると、延べ人数ですが、香港だと3人に1人、台湾だと5人に1人、韓国だと7人に1人、シンガポールだと10人に1人と、こんなに来ているというのは、やはりリピーターが多いということにして、リピーターが多いということは、いわゆる観光名所、例えば世界遺産とかそういった所だけじゃなくて、2回目、3回目っていうのは違う所に行きますんで、我が河内長野市にも来てくださるかなという期待を持っているところがございます。

河内長野市としてもいろいろ考えているんですが、やはり私の市だけじゃなくて、いろいろな市町村がたぶん関西広域連合のお力を借りたいのは、いろいろなアドバイスをいただきたいというところかなと思っております。

例えばなんですが、姉妹都市まですると事務が繁雑になるんですけども、例えば観光協定の覚書ぐらいをどこか紹介していただいて、例えば河内長野でしたら関西サイクルスポーツセンターがございまして、自転車のまちとして売り出しているところがあります。そういったところで、海外のここも自転車で頑張っているよっていうところで、最初のきっかけづくりの所だけでも、こことどうですかみたいな、あるいは相手の方にお話ししていただくとか、細かいところはその市町村で詰める。1対

1 だけじゃなくて、例えば、ほかにも辰野金吾の旅館というのがございます。南天苑というところなんです、当然奈良ホテルも辰野金吾の設計ですし、例えば奈良市、河内長野市、辰野金吾関係の建物、台湾とかにもたくさんありますんで、そういったところを1対1で結ぶんじゃなくて、3、4、5とか、そういった形で結んでいければ、それで覚書があれば、それを契機にもっとインバウンドを呼んでいけるんじゃないかなというところがございます。

やはりインバウンドっていうところだけでも切り離して、もう少し一歩踏み込んでどうやっていくべきかっていうのを真剣に我々考えていかないと、当然外国人から見ると日本というのは1つの選択肢にすぎないんで、やはり日本に来てもらうためにはとということなんです。特に我々としては、関西に来ていただくにはどうすべきかと。待っているだけじゃなくて、イベントをすれば来るだろうというんじゃなくて、やはりこっちから攻撃じゃないですけども、伺うなりの努力もして、もう少し頑張っていって、東京だけじゃなくて関西にも来てくれる、そういった枠組みを一緒に考えていきたいと思っておりますんで、そういう何か制度的なものをつくっていただくなり考えていただける、意見交換をもっとする場なり何なりで結構ですんで、考えていただければなと思っております。

以上でございます。

○事務局 担当の西脇委員が公務で退席されましたが、分野担当からのコメントはございますか。

○広域観光・文化・スポーツ振興局（南本尚司） 失礼いたします。広域分野局を担当しております南本と申します。よろしくお願いたします。

今、御指摘いただきましたとおり、リピーターがたくさん来られています。現に私、地元が京都なんですけれども、欧米豪は、まだ京都市内にほぼ留まっている状態ではありますが、それ以外の地域は、ほぼほぼ先ほど御指摘いただいた東アジアの方々が中心になっておりまして、主にリピーターでございます。そういった観点から、この

関西におきましても、大阪・京都に集中しがちな外国人観光客をより広い範囲に周遊していただくと、そういったところを重点的に取り組んでいるところでございます。

また、御指摘いただきました特定のテーマでつないでいく、例えば自転車でしたら、先進県でいえば、愛媛県でありましたり、それこそ滋賀県さんがビワイチというので非常に多くの方が来ていらっしゃいます。そういった知見を例えば広域DMOである関西観光本部に集約しまして、また先ほどいただきました辰野金吾さんの旅館でありましたり、そういった資源につきましても、集約することによって先進事例を広めていく、こういった取組を今後進めていきたいと存じます。よろしく願いいたします。

○事務局 どうもありがとうございます。

そのほかに御質問、御発言等ありますでしょうか。

阪口市長、お願いします。

○高石市長（阪口伸六） 何度も恐縮でございます。すみません。

広域行政って話、先ほど藤原さんもおっしゃったけど、これ、ほんま大事やなというのを改めて感じまして、それは、本当にお世話になりました大阪府北部地震、台風21号、またこれは西日本全体でしたけど豪雨、こういうときのカウンターパートっていうのは、本当にありがたいなと。逆に大阪の場合、あんまり災害が来ないとかいうのを言われて、こんだけ来るかなと。連続でもうぼろぼろの状態でしたけども。

実は、平井知事さん、うち、倉吉市と天女の伝説とかいうことでつながってまして、自治体同士でサミットをやったりしました。そして湯梨浜町、ありがとうございます。ブルーシートを1,300枚、どうも感謝申し上げます。

逆に鳥取地震のときに、うちのカステラ工場から2,000箱のカステラをその前に持って行かせてもらったんですけど、カステラがブルーシートに化けたということで、本当にだけど、そういう自治体間のカウンターパートっていうのが市町村レベルでもあるっていうことです。

そこで、やっぱりぜひ都道府県の動きと連動していくっていうことも大事かなと。

全国市長会なんかでも海南省の神出市長さんが副会長で防災担当をやってくれていて、和歌山はもちろんですけど、総社とか倉敷の方に、全国から集めて持って行ったという話がありました。うまく何か集中し過ぎないように救っていくっていうんですかね、そんなことも大事やと思います。

それと、これは何ていうんですか、仁坂知事さんに特に申し上げたいんですが、うちは和歌山県の有田川町と友好提携をやってます。実は、バブル時代にふるさと村いうてキャンプ場をつくったんです。それがもう老朽化して、閉村したんです。閉村したけど交流は続けていこうよという話から、向こうの物産をこっちで売ったり、そして向こうの閉校になった小学校を使って林間学舎でもどうやという話を今進めています。こういう都市部というか、市街地と中山間地域との交流、これ、僕は大事やなど改めて感じてまして、こないだちょうど有田川町行ったんですけども、もうミカンがごろごろ落ちてるんですね。勝手に取れる状態で、向こうの土産物屋さんで袋に入れて、訳ありミカンが10個入って100円やったんですよ。その訳ありちゅうシールを外して嫁さんに渡したら、これおいしいな、これ高級なミカンやな言うて嫁さんが喜んでましてね、そんなんがごろごろあるということです。何か愛媛も助けてるっていう話も聞いてますから、素晴らしいそういう材料がある。それをやっぱり都市部と交流していくっていうことがあるのかなということを感じました。

これは先ほど藤原さんもおっしゃって、あえて私も申し上げません。立場はわかっではると思いますので、昨日のことは申し上げませんが、ただ1つ、私が思うのは、この3空港のアクセスを本当にもっと利便性を良くしたらいいと思う。特に私は大阪府さんに言っているんですけども、吉村市長とも関係ありますけども、阪神高速道路のちょうど湾岸線から空港線、伊丹に抜ける道の所を1周回らんと、環状線回らんと行かれへんのですよ。今日みたいに渋滞に突っ込んじゃうと、バスなんかやったら、下手したら30分どころか1時間かかるかもわかりません、関空と伊丹が。そこで、信濃橋という所に渡り線を付けるという計画がありまして、これもとにかく一日でも早

う、もうみんな力合わせてやったら、僕は伊丹・関空はもっとスムーズにいくと思います。そして、また六甲アイランドとポートアイランドですか、あそこも高速にできる。こんなアクセスの部分をもっと早くして、本当に今の状態でもみんな相乗効果があがることがあるんじゃないかなということをもふと思ひまして、これはもう、それ以上は何も言いませんので、お答え結構でっせ。今日も井戸知事のお気持ちはよくわかってますので、とにかくそんなことでいろいろ、もろもろ申し上げましたけども、これからも関西広域連合、大いに期待しておりますので、島田市長が言うてる楠木正成も含めて、世界遺産の堺も含めて、よろしくお願い申し上げまして、終わりとさせていただきたいと思ひます。どうもありがとうございました。

○広域連合長（井戸敏三） 私からお答え要らないと言われたんだけど、ちょっとだけお話しさせていただきたいと思ひます。

関西広域連合もブロック単位で連携をいたしてございまして、例えば首都圏や九州知事会とも連携をしていて、できるだけ広域で同じような被害を受けないようなところからの応援体制をいただくというような対応をさせていただいてございまして。特に関東都県とは、毎年のように防災訓練も現地に出かけて行っているという状況です。このような連携体制を構築していくってことは今後も努力をしていきたい、このように思っております。

3 空港のアクセスを良くするというのは当然で、今、我々が一番最初に取り組んでますのは、名神湾岸線なんです。西宮の名神の終点と湾岸道路とたったの直線2キロ、4キロあれば開通するんです。そうすると大阪を通らないで湾岸道路から名神に入って大阪空港とアクセスできるということになりますし、神戸空港とも非常に近くなりますので、これをぜひ早く急ぎたいとしてございまして、一昨日も整備促進の大会をやったばかりでございます。ぜひ応援をさせていただきましたら幸いです。

○事務局 ほかに何かコメント等ございますでしょうか。

東坂市長、お願いします。

○大東市長（東坂浩一） 大阪府大東市の東坂でございます。

2025年までのそれぞれのイベントについてのコメントが非常に上昇気流で、それで良い空気での議論なんですけど、私、随分悲観論者でございますけど、2025年以降が非常に気になってございます。25年までの昇り竜が、いわゆるそのレガシー効果を持ってないがために反動が来ることをやはり今から想定をしながら、対応、対策に力を合わせて歩まないといかんのかなと、こんなふう感じてます。

7年という期間はあっという間というふうな言い方もありますが、技術の進歩でいいますと、随分期間があるように思います。AIですとか、さまざまな技術進歩を見越していただきながら、このレガシーの活用をそういった方向で検討いただきながら、一番お願いしたいのは、広域連合の皆様方で力を合わせて、さまざまな企業の誘致や研究所、ラボの誘致をこの関西に、この7年間で集約できるような形で団結していければなど、こんなふうに思っております。技術で一步先に出ればレガシーの未来も見えて来ようと思っておりますし、2025年以降についてもそれらを活用して、さらに飛躍できるような素地ができるのかなと思っております。ここが地方のいわゆる基礎自治体の弱いところ、広域の皆様方と一緒にベクトルを合わせさせていただいて、関西の未来に明るい2025年以降を構築できればなと思っておりますので、どうか御検討のほど、よろしく願いいたします。

○事務局 ただいまの御発言について、コメントはございますでしょうか。

濱田副委員、お願いします。

○副委員（濱田省司） 特にイノベーションといいますか、技術進歩というところをしっかりと、ある意味リードしていくということが大事だと、おっしゃるとおりだと思います。お話にありましたAI、人工知能ももちろんそうでありますし、特に関西・大阪エリアということで考えますと、医療とか健康に関わる産業とか先端研究が非常に集積していますので、これは非常に強みだと思います。ここをどう関西広域連合構成府県市と連携しながら、てこ入れを図っていくとか、応援をしていくかと

というのが大事なテーマだと思いますし、また特に中小企業向けということでもあります。各地で持っております公設の研究所、試験研究機関ですね、これをできるだけ経済界の皆さんに使い勝手が良い形で連携をしていくということが今とり得る手法ですが、現実的にはいろいろな課題もありますので、今、この点に関しまして、経済界に、具体的にこういった形での連携なり進歩といいますか、改善といいますか、こういったことを取り組んでもらいたいかというところの要望を少しお聞きしており、今、対話期間中というようなことをございます。ぜひ来年の夏ぐらいには、そういった対話の方向をある程度見定めまして、32年度の事業では何らかの事業に持っていけるようにしたいなと取り組んでおります。そういったことを通じまして、今お話のありました2025年以降の成長のエンジンというものに関しましても、我々も経済界とも一緒にやりながら努力をしていきたいと思っております。

○事務局 市長さん方、町長さん方、この機会ですので、何か御発言等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で意見交換を終了させていただきます。

最後に、総括を兼ねまして、井戸広域連合長から閉会の御挨拶を申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） 今日、文化庁次長のお話とか、我々の来年度の重点事業等につきまして、少し説明時間を取り過ぎて意見交換の方を圧縮した形になったので、本来だったらもっといろいろな意見が出てくるはずなのに御遠慮いただいてしまったのかなということで、少し反省をさせていただいております。

ともあれ、広域連合で取り扱っております業務のみならず、関西全体としての企画、あるいは調整ということも、私どもが担わなくてはならない役割でもございますので、その中で府県と市町村、そして市町村と広域業務、これらレベルは違いますけれども、連携をしなくてはいけないことだらけでありますから、しっかり連携をしていきたい、このように願っております。

特に2025年の万博までの間は行事が目白押しでもありますし、そのような意味で関

西の底力を見せる良い機会だと、このように思っております。ただ、ポスト万博をどうするのか、随分気の早い御指摘だったんでありますが、それは念頭に置いておく必要があると思っております。我々、ワールドマスターズゲームズは、実を言いますと、ポストオリンピックをにらんだ対応の1つだと考えて取り組んできました。幸い万博が決まりましたので、2025年を非常にエポックメイキングな年にしたいと考えております。福祉の世界では2025年問題、団塊の世代が全て75歳以上になるということで、2025年が非常に大きな目標年次にもなっております。そのような意味でも2025年が1つの大きな区切りになりつつある、そのような区切りを迎えた後もしっかりとした対応ができるような努力を関西全体としてでも取り組んでいきたい、このようなことを最後に決意として述べまして、お礼の御挨拶に代えたいと思っております。ありがとうございました。

○事務局 ありがとうございました。

では、以上をもちまして、意見交換会を終了いたします。

本日は年末のお忙しい中、御出席をいただき、ありがとうございました。今後もよろしく申し上げます。

閉会 午後5時27分